

# 総合計画1年目 コロナ禍での船出

今定例会では、令和3年度の決算を審査しました。令和3年度は、「健康都市たかはし」を目標に掲げる新総合計画1年目として様々な事業が行なわれました。新型コロナウイルス感染症対策や平成30年7月豪雨災害復旧などもありましたが、一般会計は歳入ベースで過去最高だった令和2年度決算より約13億円少ない、歳入約279億円、歳出約269億円という決算になりました。

決算審査では、市税の不納欠損額をいかに減らすか、ふるさと納税の確保方法や使い道、合併特例債の発行残額などについて質疑がありました。



## 新型コロナ対策で 約14億円を執行

学校、福祉、商工業者などへ多彩な支援

令和3年度には、引き続き感染症対策のために、多くの事業が行われました。総額約14億円のうち、多くは「子育て世帯等臨時特別支援事業」、「住民税非課税世帯等臨時特別支援事業」や「ワクチン接種事業」の費用です。そのほか、「修学旅行キャンセル料保護者負担軽減事業」など高梁市が独自に行った支援策もあります。

### 高梁市独自の新型コロナ対策事業

地域人材育成事業 (Webデザイナー育成事業)	1314万5000円
無料抗原定性検査事業	279万6000円
修学旅行キャンセル料保護者負担軽減事業	53万3000円
図書館空間創出事業	176万5000円
新型コロナウイルスワクチン接種移動支援事業	370万7000円
指定管理施設事業継続支援金	2689万9000円

事業費高騰の現在、試算は妥当か？

## 合併特例債の発行残高は約60億円

## 財政状況は依然厳しさの中に

より一層の行財政改革を求める

令和3年度は、財政の健全性を見ための3指標がすべて改善しています。国の補正予算に基づく地方交付税の追加交付などが影響したものであり、依然として厳しい状況であります。特に、財政の硬直化を見る経常収支比率は、令和2年度には県内15市中14位だったものが、令和3年度は最下位になりました。令和4年度以降、新消防庁舎など新たな大型事業が予定されていることもあり、持続的な行政運営のために、一層の行財政改革が必要になってきます。

### 高梁市の財政指標

経常収支比率 91.0%

財政の弾力性を示す指標。70～80%が理想。100%に近いほど自由に使えるお金が少ないことを意味する。

15位 / 岡山県内15市中

実質公債費比率 11.9%

借金の返済額が財政規模に閉める割合。18%以上になると、地方債の発行に総務大臣の許可が必要になる。

14位 / 岡山県内15市中

将来負担比率 70.9%

借入金など将来支払う負担額の残高の程度を示す。350以上になると「早期健全化団体」となる。

14位 / 岡山県内15市中

高梁市の合併特例債は借りられる限度額が約174億円で、令和3年度末までに約114億円を発行しています。今後、新消防庁舎、高梁認定こども園、有漢義務教育学校の3つで約40億円が必要とされており、最終的な発行率は88%程度になる見込みです。

事業費が高騰している中で、40億円という試算は妥当なのかという質問に対して、事業費を見直す可能性はあるという回答がありました。

### 合併特例債ってどんなもの？

地方公共団体の借金を地方債といいます。発行するには議会の議決が必要です。合併特例債は、市町村が合併した後に必要となる事業のために、新市建設計画に基づいて借り入れることができる地方債の一種です。事業費全体の95%まで借り入れでき、元利償還金の70%は、地方交付税として国が負担する有利な財源です。発行できる総額は、合併した自治体の人口などから上限が設定されています。

※元利償還金 借りたお金とそれに対する利子を合わせて支払う金額

### 令和3年度末の県内他市の合併特例債発行率

	ハード事業	ソフト事業
高梁市	65.63%	99.87%
岡山市	93.16%	100%
倉敷市	99.86%	100%
津山市	98.60%	100%
井原市	60.34%	99.96%
総社市	69.35%	100%
新見市	99.58%	100%
備前市	78.01%	79.93%
瀬戸内市	69.05%	100%
赤磐市	65.91%	100%
真庭市	41.86%	80%
美作市	49.18%	99.92%
浅口市	36.85%	99.99%